

## Ⅱ 結果の内容

## 《県政の広報について》

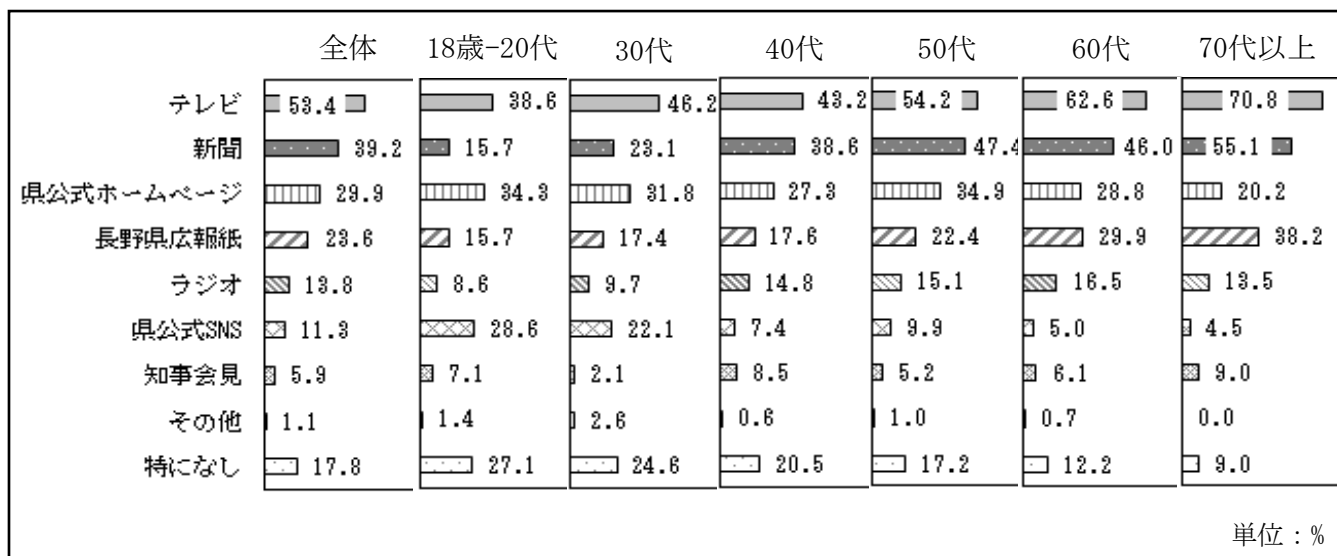
### ＜県政情報の入手先＞

「テレビ」が5割超、「新聞」が約4割でマスメディアからの入手が中心となっている

問1 長野県(県政)に関する情報の入手先について当てはまるものを選んでください。(いくつでも)

	n=1,000	回答数 (人)	割合 (%)
テレビ		534	53.4
新聞		392	39.2
県公式ホームページ		299	29.9
長野県広報紙		236	23.6
ラジオ		138	13.8
県公式SNS(LINE、X(旧Twitter)、Youtubeなど)		113	11.3
知事会見		59	5.9
その他		11	1.1
特になし		178	17.8

●「テレビ」は各年代で1番高いが、18歳～20代及び30代では全体に比べて「新聞」の割合が低く、「県公式SNS」の割合が高い。「新聞」や「長野県広報紙」といった紙媒体は年代が上がるにつれ高い傾向にある。



その他としては、「ネットニュース」「フリーペーパー」等の回答が見られた。

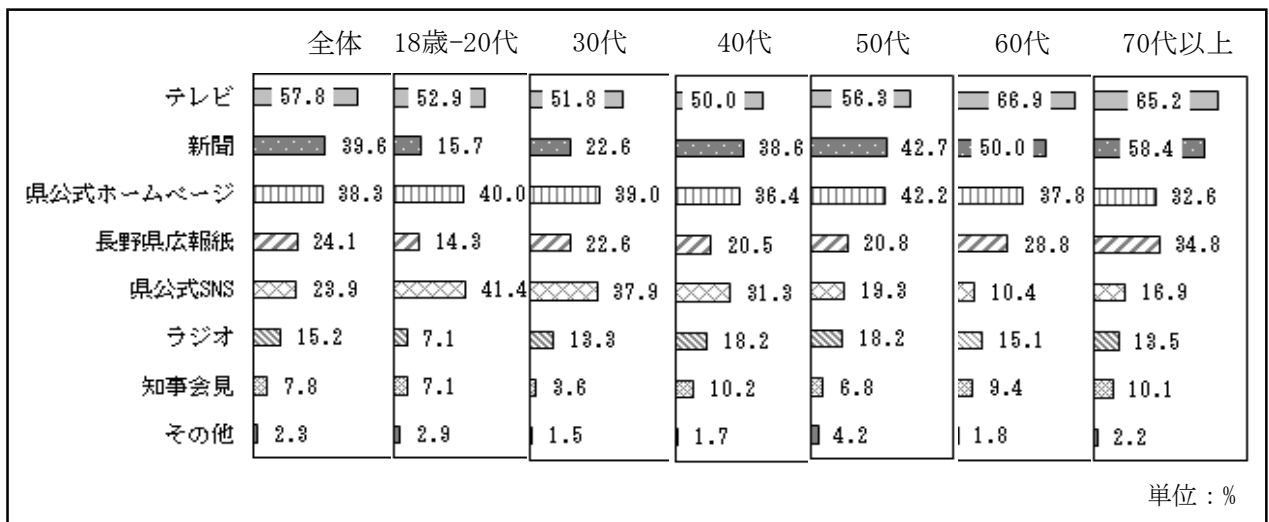
＜今後の県政情報の入手先＞

「テレビ」が約6割、「新聞」が約4割で問1と同様にマスメディアから情報入手したい者が多い。また問1に比べ県公式ホームページと県公式SNSの割合が高くなっている。

問2 今後、県政情報入手したい広報媒体について当てはまるものを選んでください。(いくつでも)

	n=1,000	回答数 (人)	割合 (%)
テレビ		578	57.8
新聞		396	39.6
県公式ホームページ		383	38.3
長野県広報紙		241	24.1
県公式SNS(LINE、X(旧Twitter)、Youtubeなど)		239	23.9
ラジオ		152	15.2
知事会見		78	7.8
その他		23	2.3

●年代別に見ると18歳～20代から40代では「県公式SNS」の割合が全体よりも高く、問1よりもそれぞれの年代で10ポイント以上高くなっている。



その他としては、「ネットニュース」「フリーペーパー」等の回答が見られた。

<興味・関心のある分野>

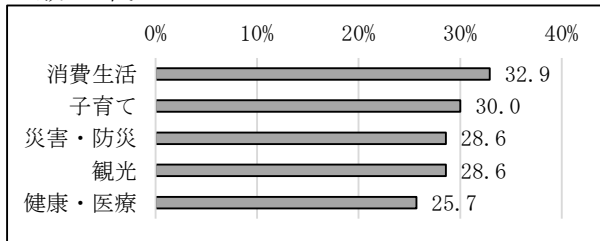
「災害・防災」が4割超、「健康・医療」が4割弱となっている。

問3 あなたの興味・関心のある分野で当てはまるものを選んでください。(3つまで)

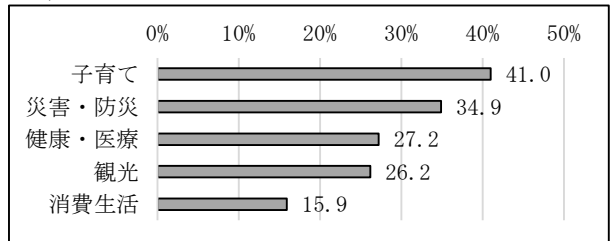
	n=1,000	回答数 (人)	割合 (%)
災害・防災		448	44.8
健康・医療		369	36.9
観光		256	25.6
消費生活		217	21.7
子育て		159	15.9
公共交通・道路		155	15.5
スポーツ		145	14.5
福祉		142	14.2
文化・芸術		119	11.9
交通安全・防犯		108	10.8
県税		108	10.8
労働・雇用		91	9.1
教育		68	6.8
住宅		61	6.1
環境保全		52	5.2
河川・砂防		38	3.8
商工業		34	3.4
農林業		31	3.1
その他		15	1.5

●年代別に上位5つを比較すると各年代とも「災害・防災」、「健康・医療」、「消費生活」の割合が高い。18歳～20代から40代では「子育て」の割合が高く、60代以上は「福祉」の割合が高くなっている。

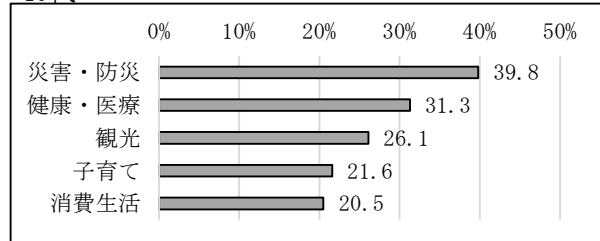
18歳-20代



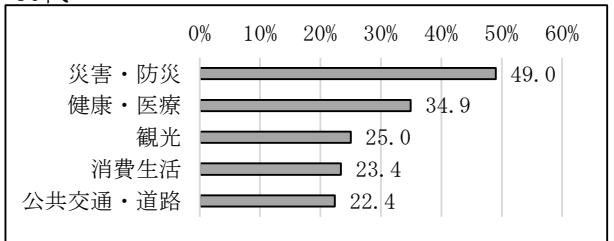
30代



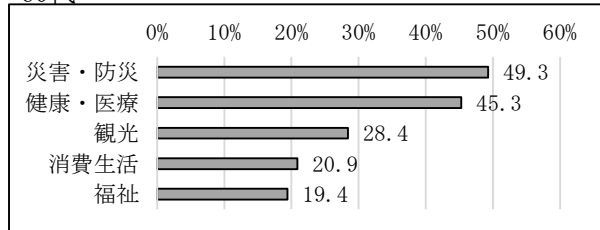
40代



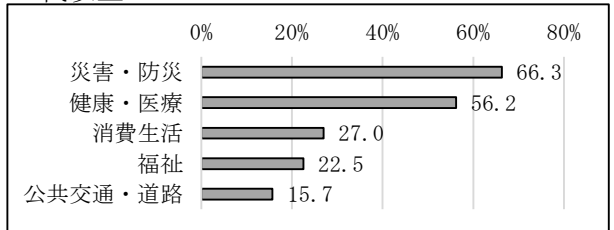
50代



60代



70代以上



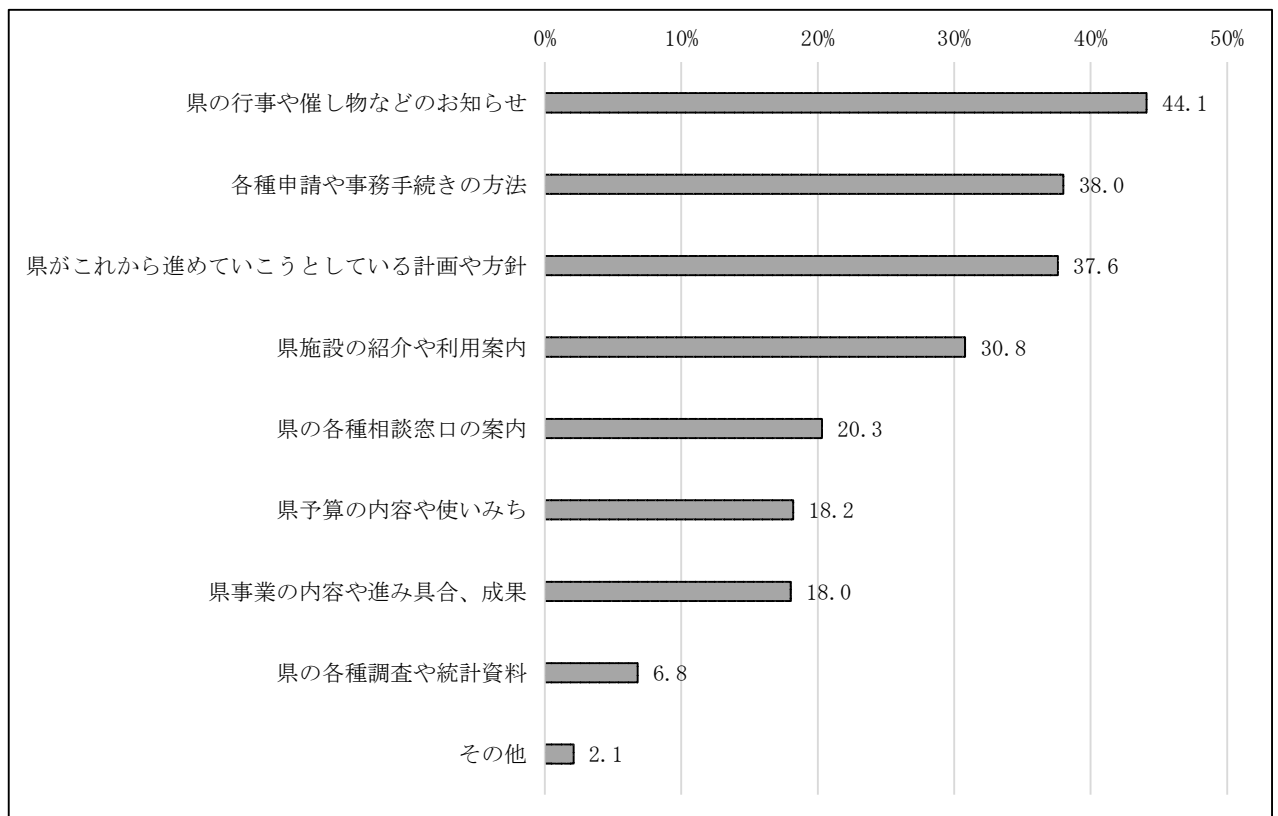
その他としては、「補助金」「入札・契約情報」等の回答が見られた。

＜興味・関心のある分野の知りたい情報＞  
 「県の行事や催し物などのお知らせ」が4割超

問4 問3で回答した分野の中で、さらにあなたが知りたい情報に当てはまるものを選んでください。(3つまで)

	n=1,000	回答数 (人)	割合 (%)
県の行事や催し物などのお知らせ		441	44.1
各種申請や事務手続きの方法		380	38.0
県がこれから進めていこうとしている計画や方針		376	37.6
県施設の紹介や利用案内		308	30.8
県の各種相談窓口の案内		203	20.3
県予算の内容や使いみち		182	18.2
県事業の内容や進み具合、成果		180	18.0
県の各種調査や統計資料		68	6.8
その他		21	2.1

● 「県の行事や催し物などのお知らせ」が44.1%と最も高く、次に「各種申請や事務手続きの方法」(38.0%)、「県がこれから進めていこうとしている計画や方針」(37.6%)と続いている。



その他としては、「緊急情報」「補助金」等の回答が見られた。

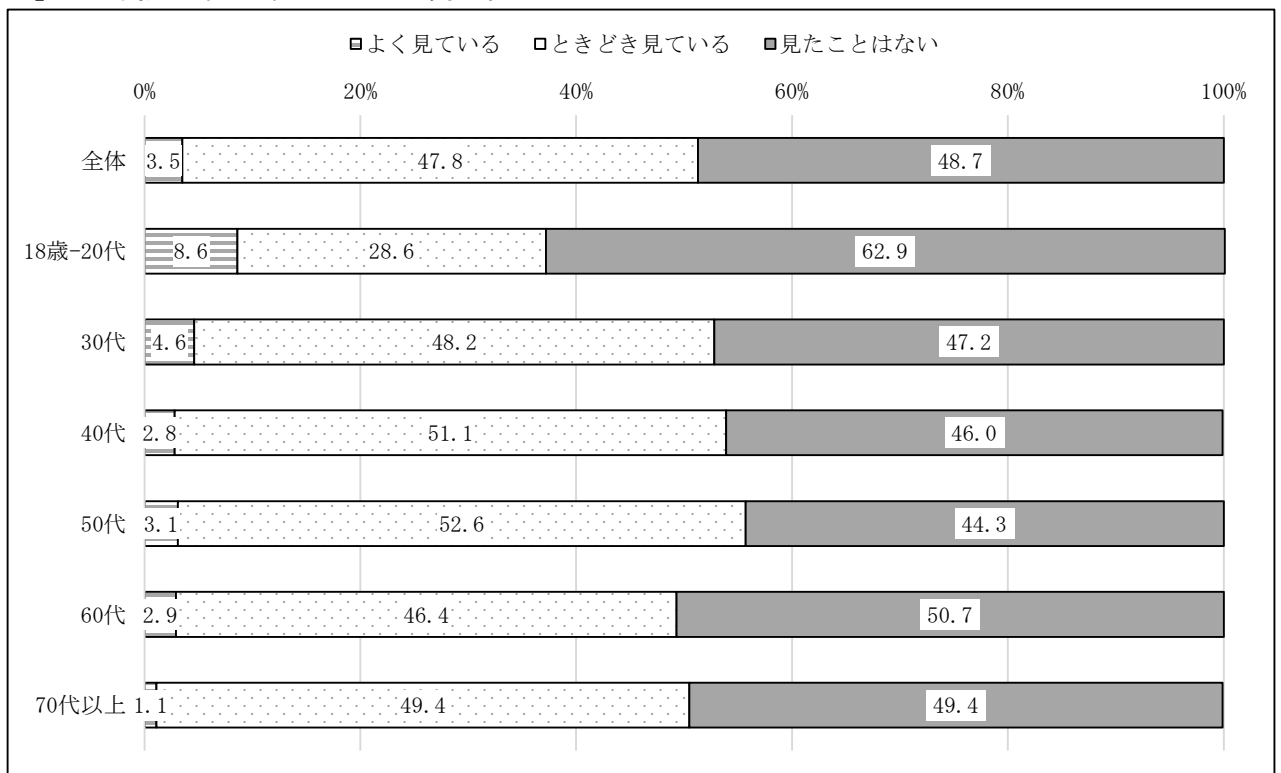
<県公式ホームページの閲覧>

「よく見ている」と「ときどき見ている」が合わせて約5割

問5 あなたは長野県公式ホームページを見たことがありますか。

	n=1,000	回答数 (人)	割合 (%)
よく見ている		35	3.5
ときどき見ている		478	47.8
見たことはない		487	48.7

●30代以上は「ときどき見ている」と「見たことはない」が同程度。18歳～20代は「見たことはない」が6割超と他の年代に比べて高い。

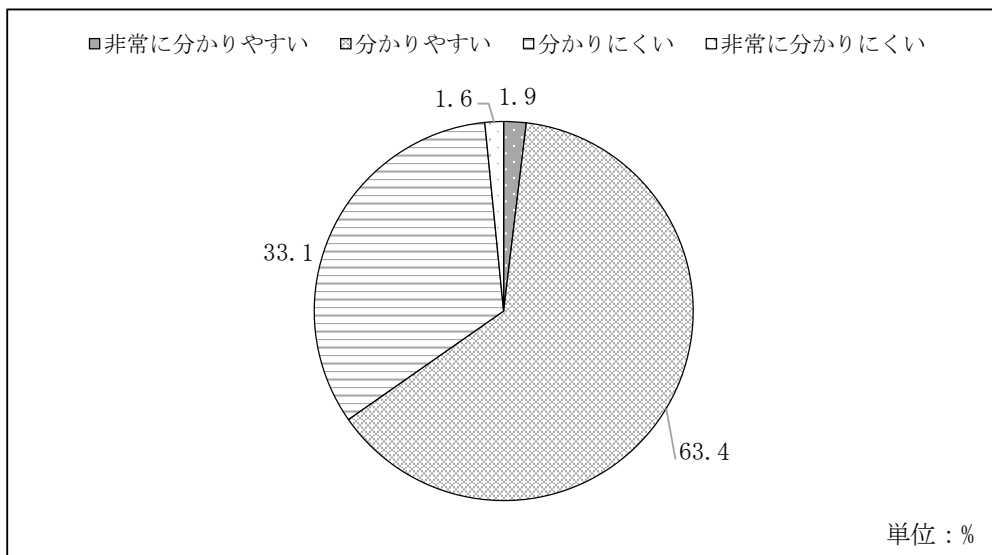


<県公式ホームページの分かりやすさ>  
 「非常に分かりやすい」と「分かりやすい」が合わせて6割超

問6 問5で「よく見ている」又は「ときどき見ている」を選ばれた方に伺います。長野県公式ホームページで掲載している情報は、分かりやすいですか。

	n=513	回答数 (人)	割合 (%)
非常に分かりやすい		10	1.9
分かりやすい		325	63.4
分かりにくい		170	33.1
非常に分かりにくい		8	1.6

● 「分かりやすい」が63.4%と最も高く、次に「分かりにくい」（33.1%）と続いている。

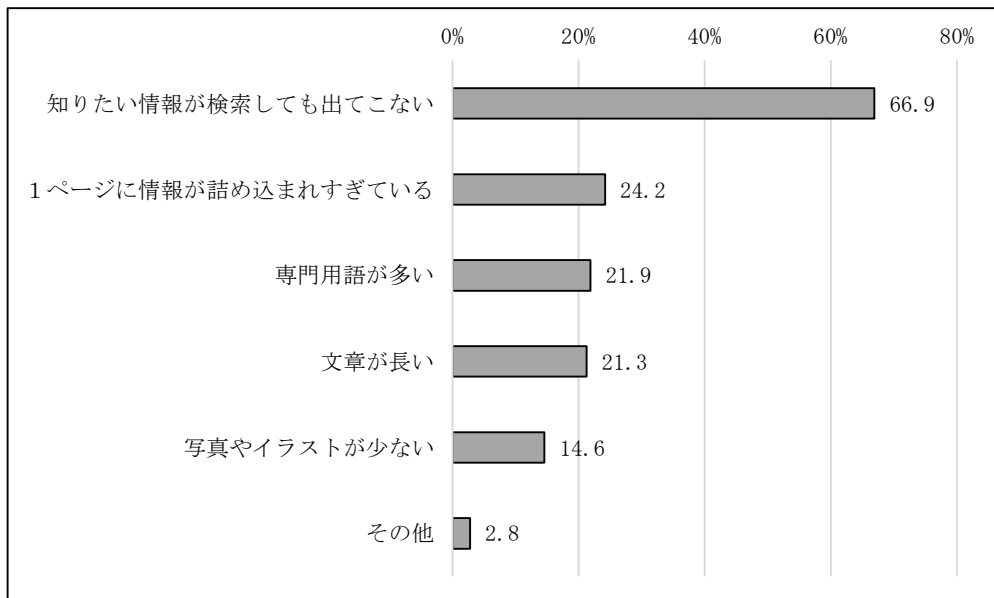


＜県公式ホームページの分かりにくい理由＞  
「知りたい情報が検索しても出てこない」が7割弱

問7 問6で「分かりにくい」又は「非常に分かりにくい」を選ばれた方に伺います。「分かりにくい」と感じた理由を選んでください。(いくつでも)

	回答数 (人)	割合 (%)
n=178		
知りたい情報が検索しても出てこない	119	66.9
1ページに情報が詰め込まれすぎている	43	24.2
専門用語が多い	39	21.9
文章が長い	38	21.3
写真やイラストが少ない	26	14.6
その他	5	2.8

● 「知りたい情報が検索しても出てこない」が66.9%と最も高く、次に「1ページに情報が詰め込まれすぎている」(24.2%)、「専門用語が多い」(21.9%)と続いている。



その他としては、「どこをクリックすると欲しい情報があるのか分からない」「文章表現が不明確」等の回答が見られた。

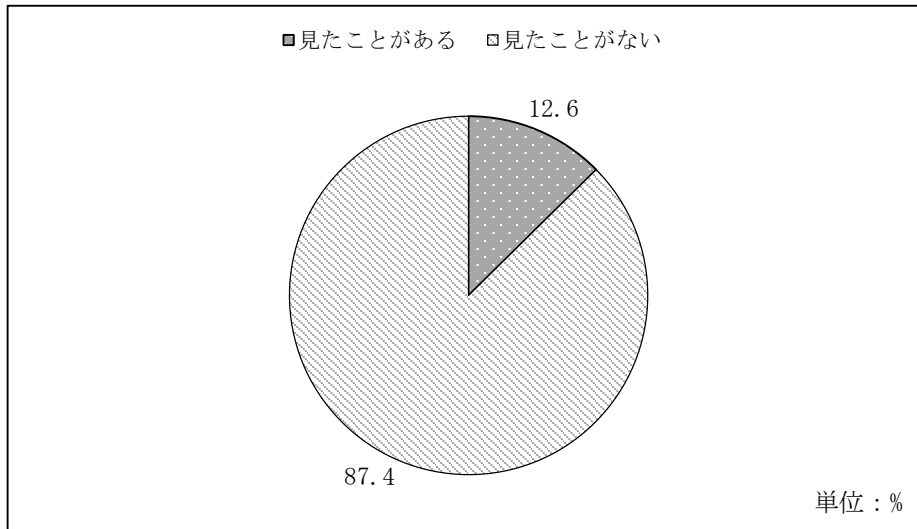


＜県広報紙の閲覧＞  
「見たことがない」が9割弱

問8 長野県では令和4年11月に「ゼロカーボン(脱炭素)」、令和5年2月に「特定健診」をテーマに広報紙「県からのたより」やテレビCM、インターネット広告などでお知らせを行いました。この広報のいずれかをご覧になったことがあるか当てはまるものを選んでください。

	n=1,000	回答数 (人)	割合 (%)
見たことがある		126	12.6
見たことがない		874	87.4

● 「見たことがある」が12.6%、「見たことがない」が87.4%となっている。



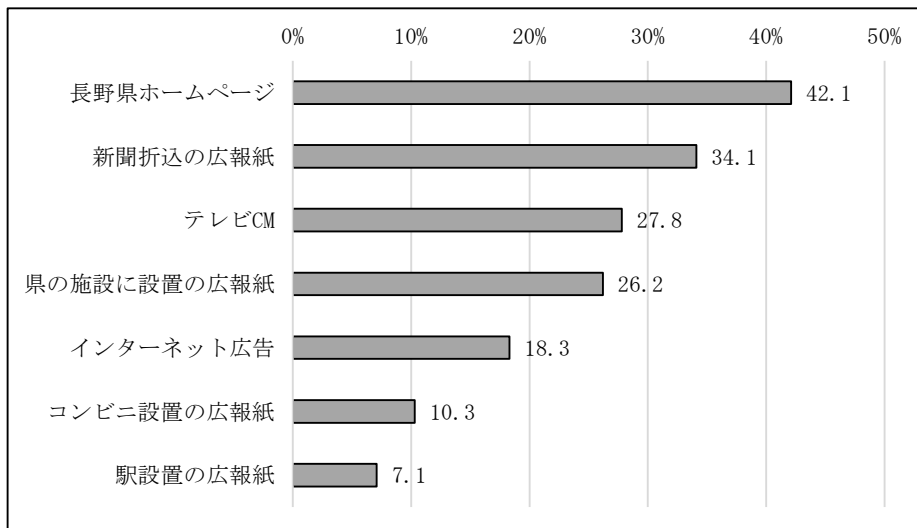
<県広報紙の閲覧先>

「長野県ホームページ」が約4割、「新聞折込の広報紙」が3割超となっている。

問9 問8で「見たことがある」を選ばれた方に伺います。どこで見たことがあるか当てはまるものを選んでください。(いくつでも)

	n=126	回答数 (人)	割合 (%)
長野県ホームページ		53	42.1
新聞折込の広報紙		43	34.1
テレビCM		35	27.8
県の施設に設置の広報紙		33	26.2
インターネット広告		23	18.3
コンビニ設置の広報紙		13	10.3
駅設置の広報紙		9	7.1

●「長野県ホームページ」が42.1%と最も高く、次に「新聞折込の広報紙」(34.1%)、「テレビCM」(27.8%)となっている。



<県広報紙の紙面構成>

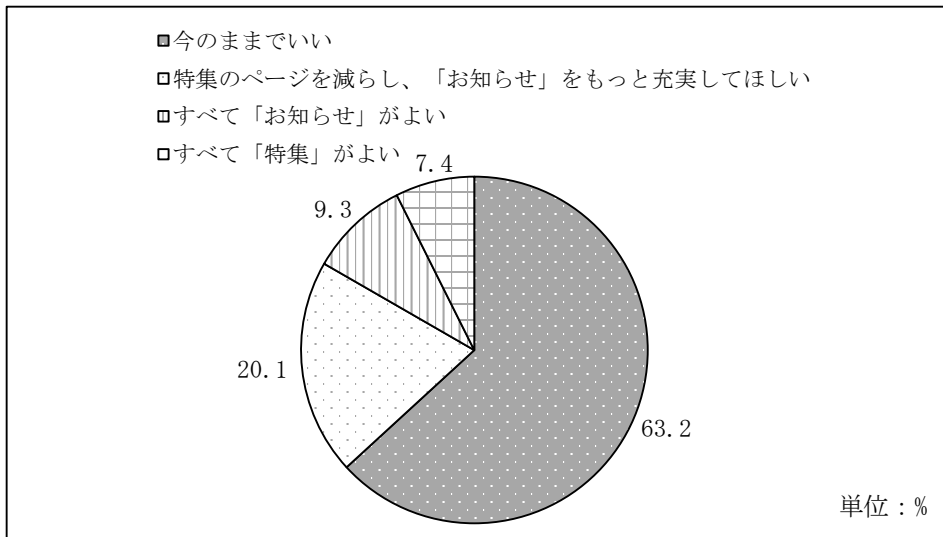
「今のままでいい」が6割超となっている。

問10

現在の広報紙「県からのたより」は4ページで構成され、「ゼロカーボン(脱炭素)」や「特定健診」など特定のテーマ1つを3ページで「特集」し、残り1ページで税金や文化芸術、健康など生活に身近な県政全般のさまざまな「お知らせ」をしています。あなたが読みたいと思う紙面の構成で最も当てはまるものを選んでください。

	n=1,000	回答数 (人)	割合 (%)
今のままでいい		632	63.2
特集のページを減らし、「お知らせ」をもっと充実してほしい		201	20.1
すべて「お知らせ」がよい		93	9.3
すべて「特集」がよい		74	7.4

●「今のままでいい」が63.2%と最も高く、次に「特集のページを減らし、『お知らせ』をもっと充実してほしい」(20.1%)、「すべて『お知らせ』がよい」(9.3%)となっている。



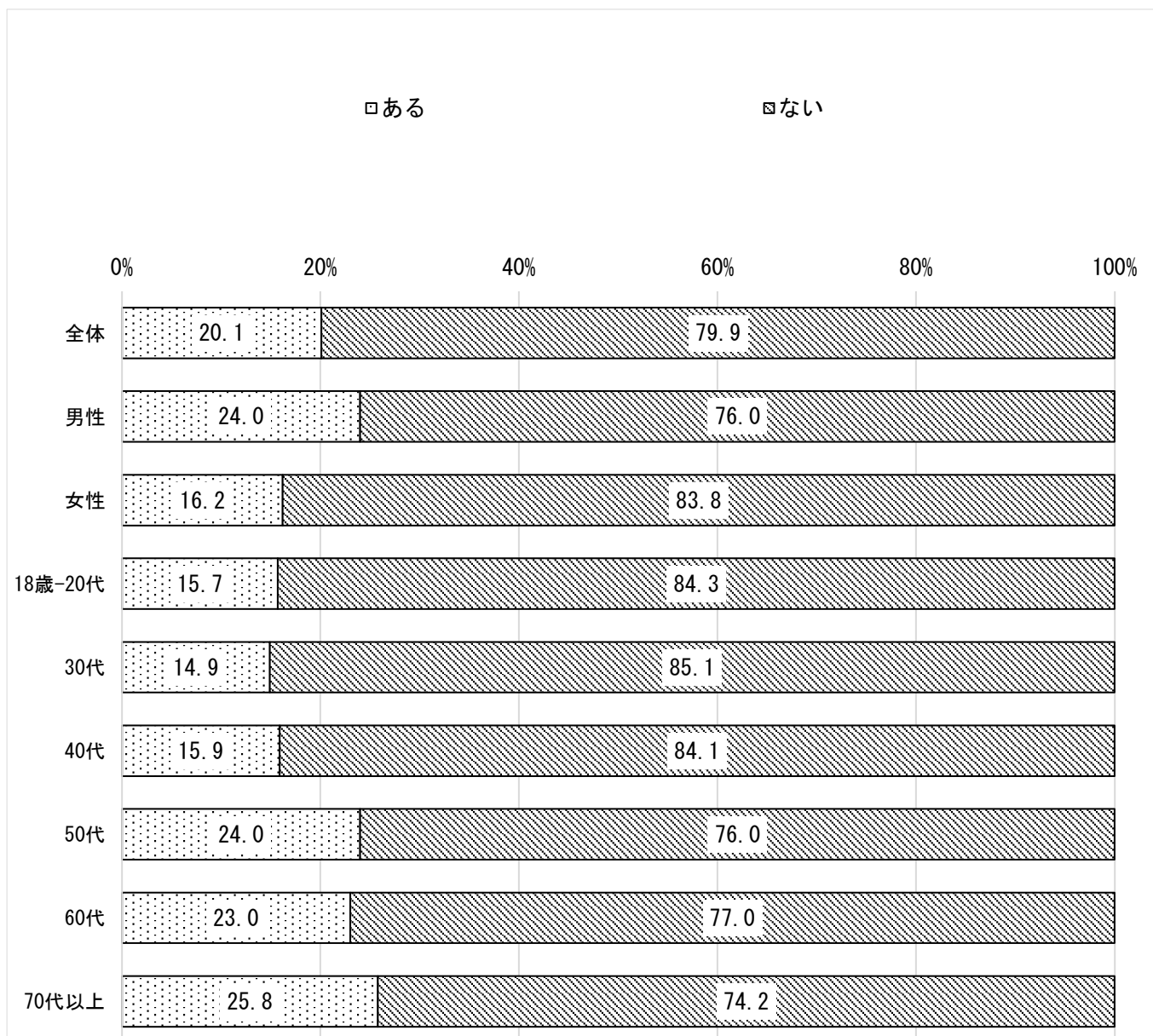
＜県議会広報の接触状況＞

「見聞きしたことはない」が全体の約8割

問11 長野県議会では議会の情報を様々な方法でお知らせしています。県議会の広報を見聞きしたことはありますか。

	n=1,000	回答数 (人)	割合 (%)
見聞きしたことがある		201	20.1
見聞きしたことはない		799	79.9

●「見聞きしたことはない」が全体の約8割。年代別で見ると、18歳～20代から40代は「見聞きしたことはない」が8割超となっており、50代以上と比べて高い。

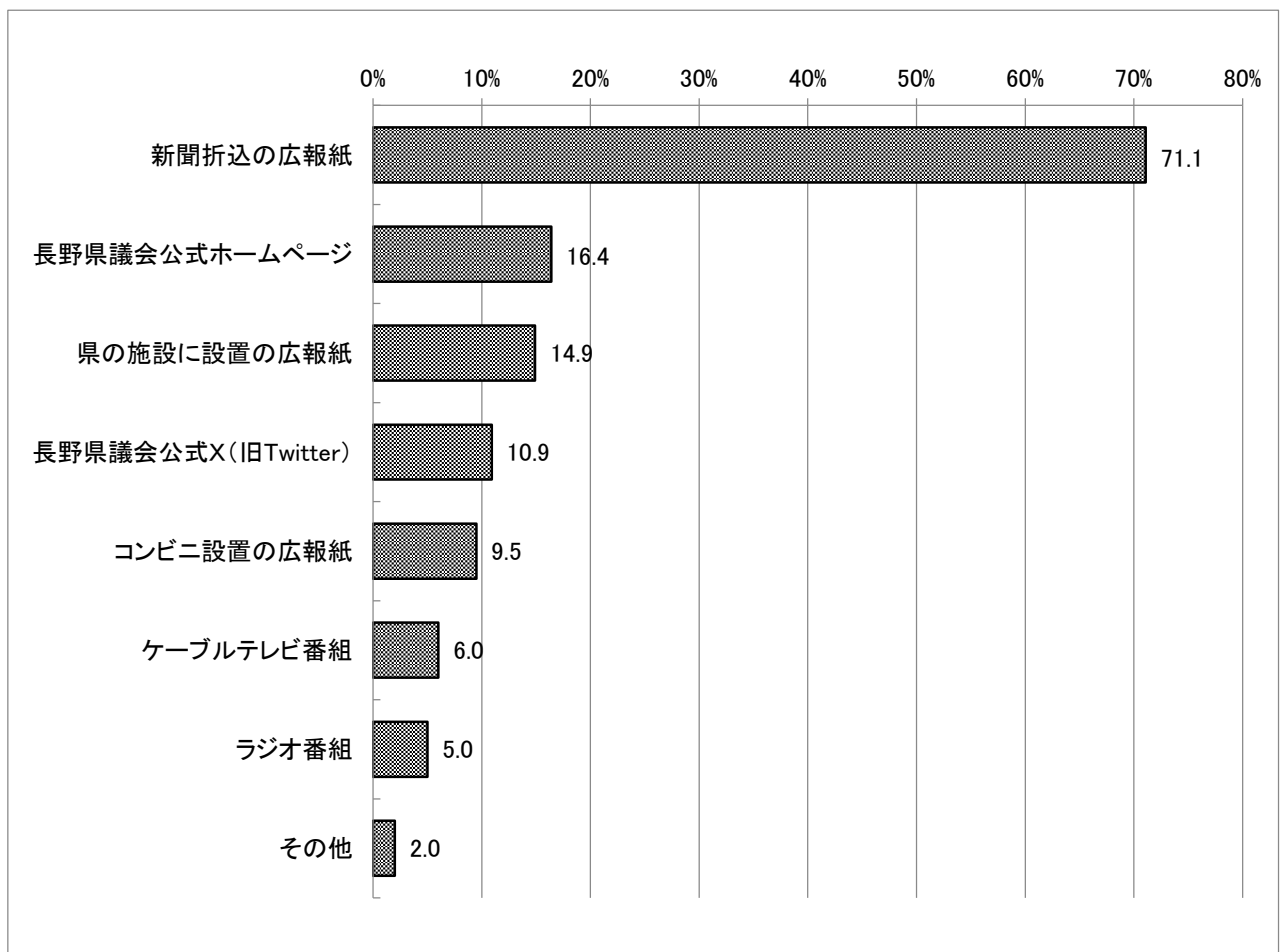


<見聞きした媒体>  
 「新聞折込の広報紙」が約7割

問12 問11で「ある」を選ばれた方に伺います。どの広報を見聞きしたか、当てはまるものを選んでください。  
 (いくつでも)

	回答数 (人)	割合 (%)
n=201		
新聞折込の広報紙	143	71.1
長野県議会公式ホームページ	33	16.4
県の施設に設置の広報紙	30	14.9
長野県議会公式X(旧Twitter)	22	10.9
コンビニ設置の広報紙	19	9.5
ケーブルテレビ番組	12	6.0
ラジオ番組	10	5.0
その他	4	2.0

●「新聞折込の広報紙」が71.1%と最も高く、次に「長野県議会公式ホームページ」(16.4%)、「県の施設に設置の広報紙」(14.9%)と続いている。



その他としては、「区からの回覧板」「職場」等の回答が見られた。

## 《長野県森林づくり県民税(森林税)について》

### ＜森林税と使途の認知度＞

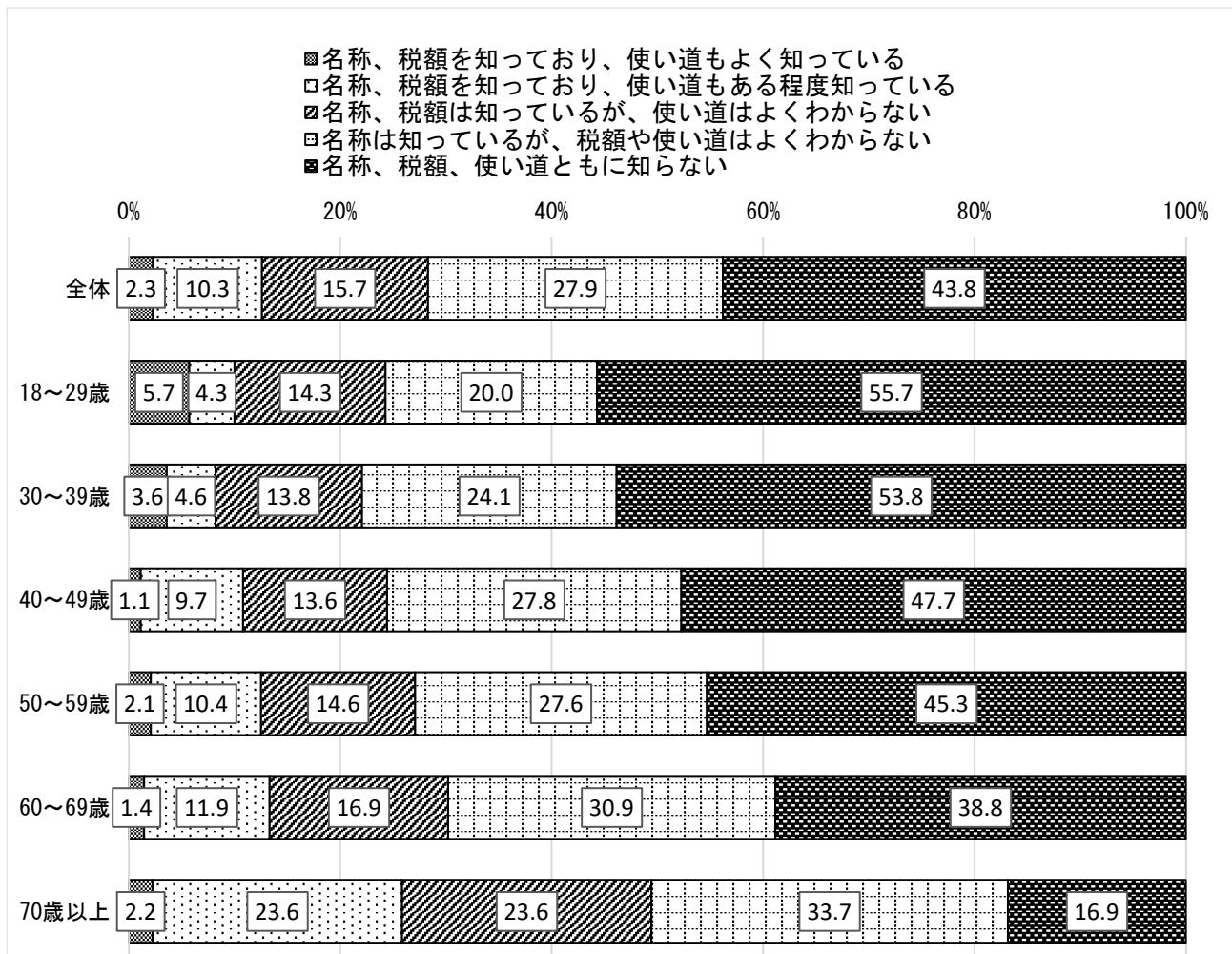
「森林税を知っている」のは全体の6割弱、そのうち「森林税の使い道も知っている」のは1割超

問13 あなたは、森林税の名称(「長野県森林づくり県民税」又は「森林税」)や税額(お一人当たりの年間課税額)、使い道についてご存知ですか。最も当てはまるものを選んでください。

	n=1,000	回答数 (人)	割合 (%)
名称、税額を知っており、使い道もよく知っている		23	2.3
名称、税額を知っており、使い道もある程度知っている		103	10.3
名称、税額は知っているが、使い道はよくわからない		157	15.7
名称は知っているが、税額や使い道はよくわからない		279	27.9
名称、税額、使い道ともに知らない		438	43.8

● 「名称、税額を知っており、使い道もよく知っている」(2.3%) 「名称、税額を知っており、使い道もある程度知っている」(10.3%)を合わせて12.6%となっている。年代別では、70代以上(25.8%)が最も高く、30代(8.2%)が最も低い。

● 「名称、税額、使い道ともに知らない」が全体の43.8%と最も高い割合を占める。



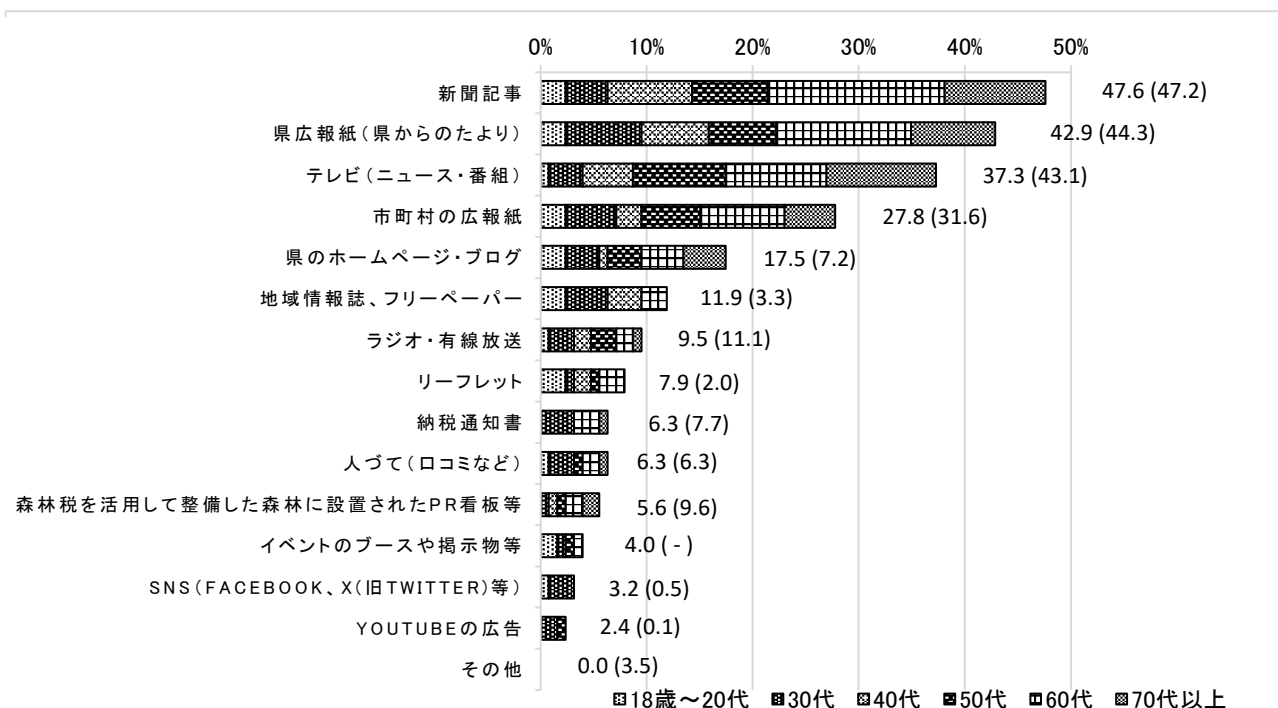
＜森林税の名称や税額、使途を認知した媒体＞

「新聞記事」が約5割、「県広報紙(県からのたより)」が4割超、「テレビ(ニュース・番組)」が4割弱

問14 問13で「名称、税額を知っており、使い道もよく知っている」又は「名称、税額を知っており、使い道もある程度知っている」を選ばれた方に伺います。これまで森林税について、見たり、聞いたりしたことがある媒体で、当てはまるものを選んでください。(いくつでも)

	R5年度 n=126		(参考) R2県政モニターアンケート調査 n=763	
	回答数 (人)	割合 (%)	回答数 (人)	割合 (%)
新聞記事	60	47.6	360	47.2
県広報紙(県からのたより)	54	42.9	338	44.3
テレビ(ニュース・番組)	47	37.3	329	43.1
市町村の広報紙	35	27.8	241	31.6
県のホームページ・ブログ	22	17.5	55	7.2
地域情報誌、フリーペーパー	15	11.9	25	3.3
ラジオ・有線放送	12	9.5	85	11.1
リーフレット	10	7.9	15	2.0
納税通知書	8	6.3	59	7.7
人づて(口コミなど)	8	6.3	48	6.3
森林税を活用して整備した森林に設置されたPR看板等	7	5.6	73	9.6
イベントのブースや掲示物等	5	4.0	-	-
SNS(Facebook、X(旧Twitter)等)	4	3.2	4	0.5
YouTubeの広告	3	2.4	1	0.1
その他	0	0.0	27	3.5

●「新聞記事」が47.6%と最も多く、次に「県広報紙(県からのたより)」(42.9%)、「テレビ(ニュース・番組)」(37.3%)となっている。



＜森林税に関する情報確認に希望する媒体＞

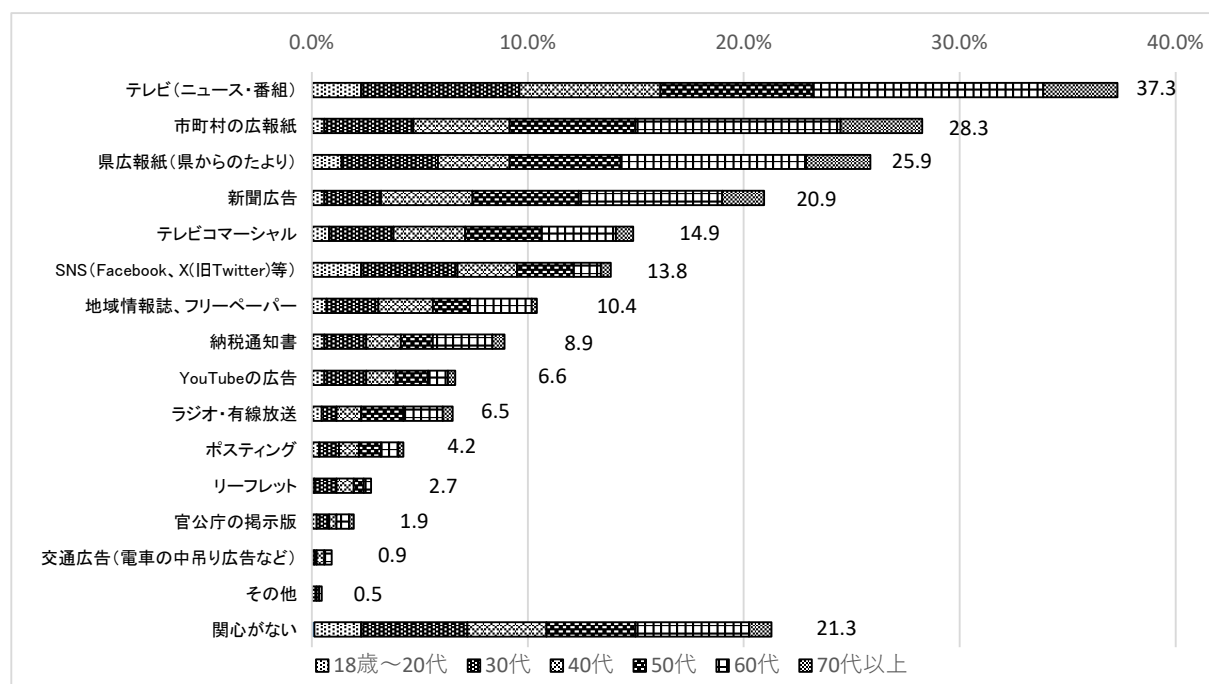
「テレビ(ニュース・番組)」が4割弱、「市町村の広報紙」が約3割、「県広報紙(県からのたより)」が2割超

問15

問13で「名称、税額は知っているが、使い道はよくわからない」「名称は知っているが、税額や使い道はよくわからない」「名称、税額、使い道ともに知らない」のいずれかを選ばれた方に伺います。今後、県が森林税に関して情報をお伝えする際、どのような媒体を希望されますか。当てはまるものを選んでください。(4つまで)

	n=874	回答数 (人)	割合 (%)
テレビ(ニュース・番組)		326	37.3
市町村の広報紙		247	28.3
県広報紙(県からのたより)		226	25.9
新聞広告		183	20.9
テレビコマーシャル		130	14.9
SNS(Facebook、X(旧Twitter)等)		121	13.8
地域情報誌、フリーペーパー		91	10.4
納税通知書		78	8.9
YouTubeの広告		58	6.6
ラジオ・有線放送		57	6.5
ポスティング		37	4.2
リーフレット		24	2.7
官公庁の掲示版		17	1.9
交通広告(電車の中吊り広告など)		8	0.9
その他		4	0.5
関心がない		186	21.3

●「テレビ(ニュース・番組)」が37.3%と最も多く、次に「市町村の広報紙」(28.3%)、「県広報紙(県からのたより)」(25.9%)となっている。



「その他」としては、「LINE」、「ホームページ」等の回答が見られた。

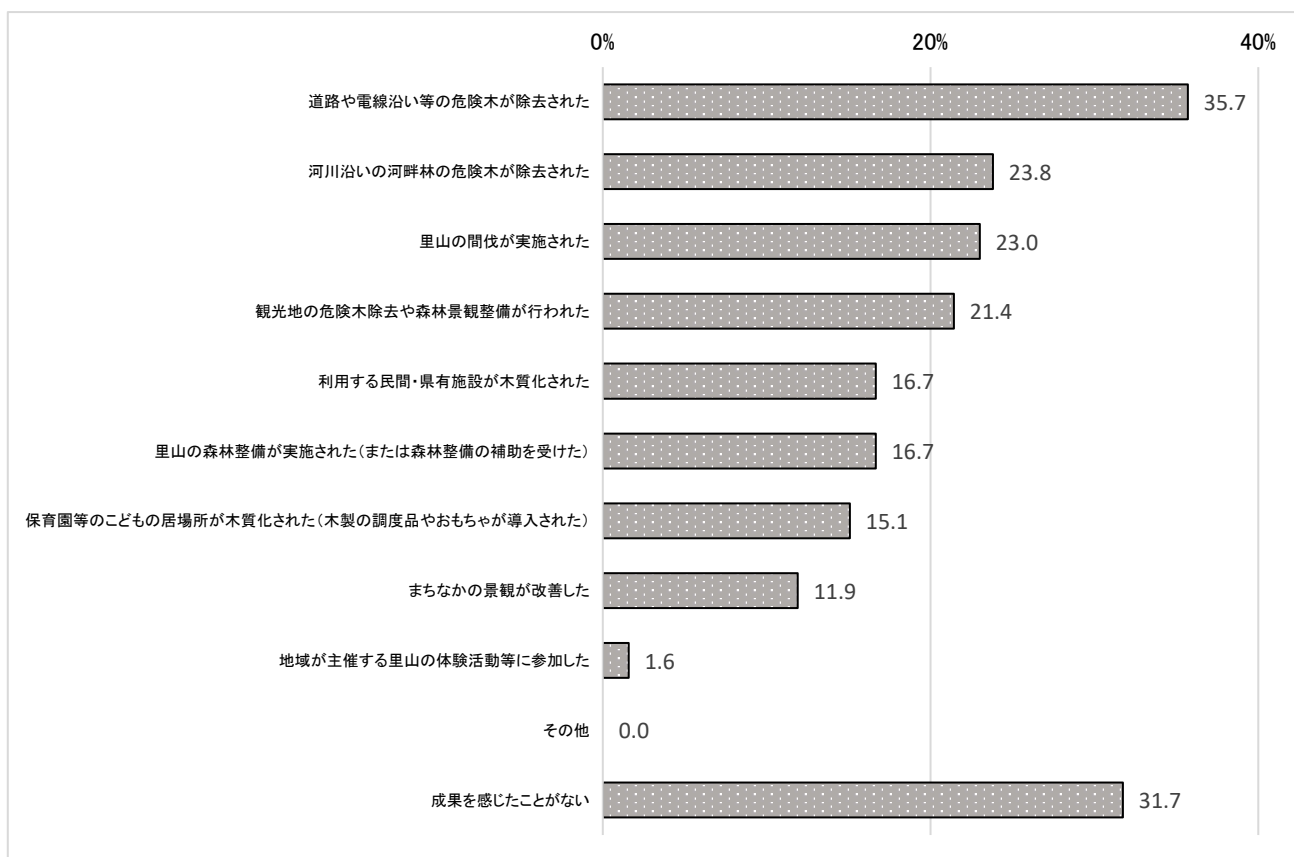


【問13で①又は②(森林税の使途を知っている・ある程度知っている)を回答した方について集計】  
 <森林税を活用した成果を感じる取組>  
 「道路や電線沿い等の危険木が除去された」が3割超、「河川沿いの河畔林の危険木が除去された」、「里山の間伐が実施された」がともに2割超

問16 日頃の生活の中で、森林税を活用した成果を感じる取組はありますか。これまでに見たり、実感したりしたことがあるもので、当てはまるものを選んでください。(いくつでも)

	n=126	回答数 (人)	割合 (%)
道路や電線沿い等の危険木が除去された		45	35.7
河川沿いの河畔林の危険木が除去された		30	23.8
里山の間伐が実施された		29	23.0
観光地の危険木除去や森林景観整備が行われた		27	21.4
利用する民間・県有施設が木質化された		21	16.7
里山の森林整備が実施された(または森林整備の補助を受けた)		21	16.7
保育園等のこどもの居場所が木質化された(木製の調度品やおもちゃが導入された)		19	15.1
まちなかの景観が改善した		15	11.9
地域が主催する里山の体験活動等に参加した		2	1.6
その他		0	0.0
成果を感じたことがない		40	31.7

- 「道路や電線沿い等の危険木が除去された」が35.7%と最も多く、次いで「河川沿いの河畔林の危険木が除去された」23.8%、「里山の間伐が実施された」が23.0%となっている。
- 「成果を感じたことがない」が31.7%となっている。



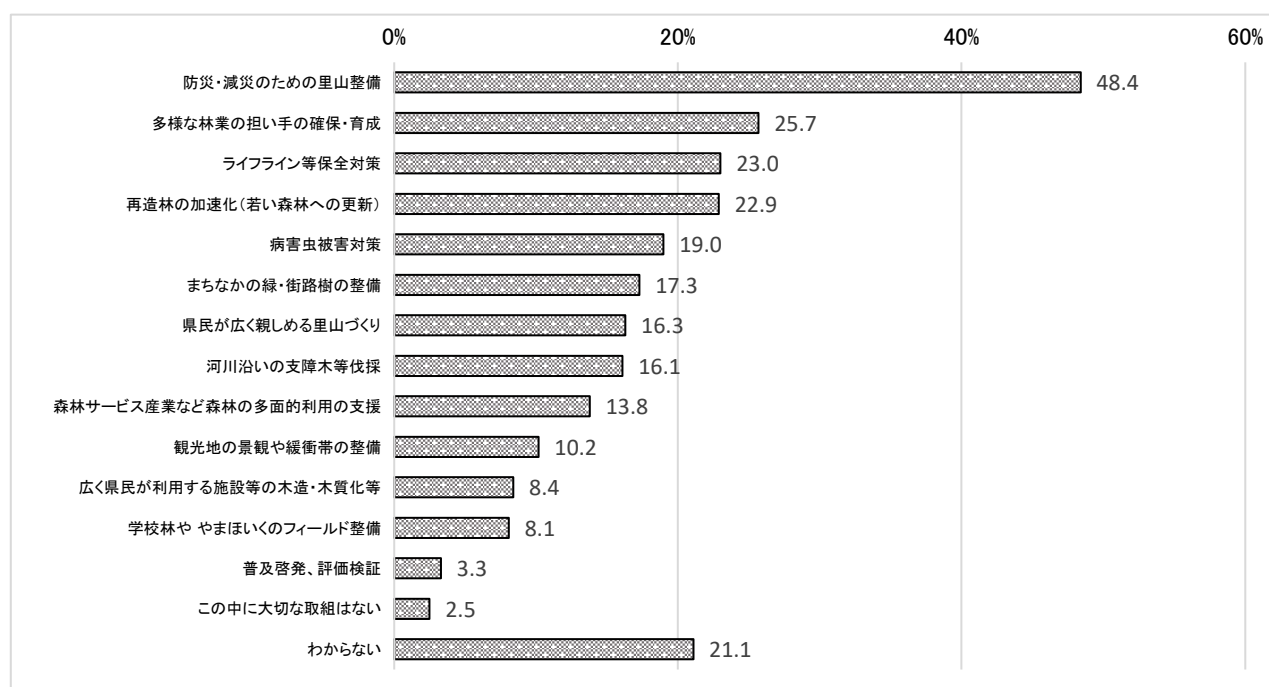
＜森林税を活用して取り組む内容として大切だと思うもの＞

「防災・減災のための里山整備」が約5割、「多様な林業の担い手の確保・育成」、「ライフライン等保全対策」がともに2割超

問17 森林税で取り組むべき内容について、あなたが特に大切だと思う取組として、当てはまるものを選んでください。(4つまで)

	n=1,000	回答数 (人)	割合 (%)
防災・減災のための里山整備		484	48.4
多様な林業の担い手の確保・育成		257	25.7
ライフライン等保全対策(道路や送電線等への倒木被害対策等)		230	23.0
再造林の加速化(若い森林への更新)		229	22.9
病虫害被害対策		190	19.0
まちなかの緑・街路樹の整備		173	17.3
県民が広く親しめる里山づくり		163	16.3
河川沿いの支障木等伐採		161	16.1
森林サービス産業など森林の多面的利用(森林セラピー、散策、キャンプ等)の支援		138	13.8
観光地の景観や緩衝帯(森林の見通しを良くすることで野生鳥獣の出没を抑制するエリア)の整備		102	10.2
広く県民が利用する施設等の木造・木質化等		84	8.4
学校林や やまほいくのフィールド整備		81	8.1
普及啓発、評価検証		33	3.3
この中に大切な取組はない		25	2.5
わからない		211	21.1

●「防災・減災のための里山整備」が48.4%と最も多く、次に「多様な林業の担い手の確保・育成」が25.7%、「ライフライン等保全対策」が23.0%となっている。



## 《自転車の安全利用について》

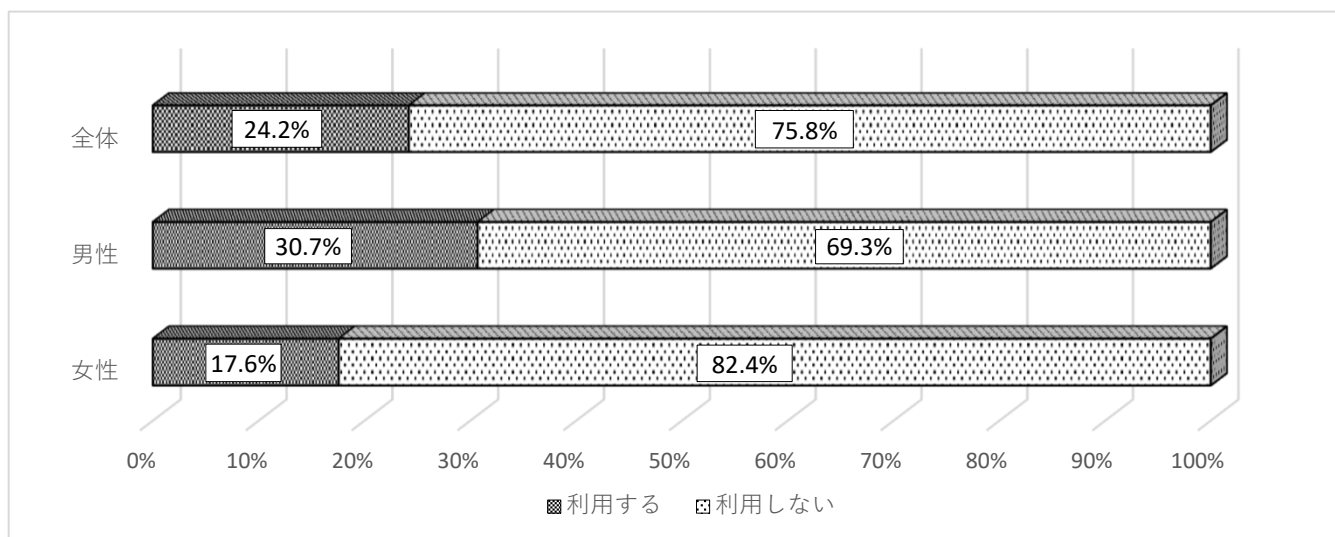
### ＜自転車の利用状況＞

「自転車を利用する」が全体の2割超

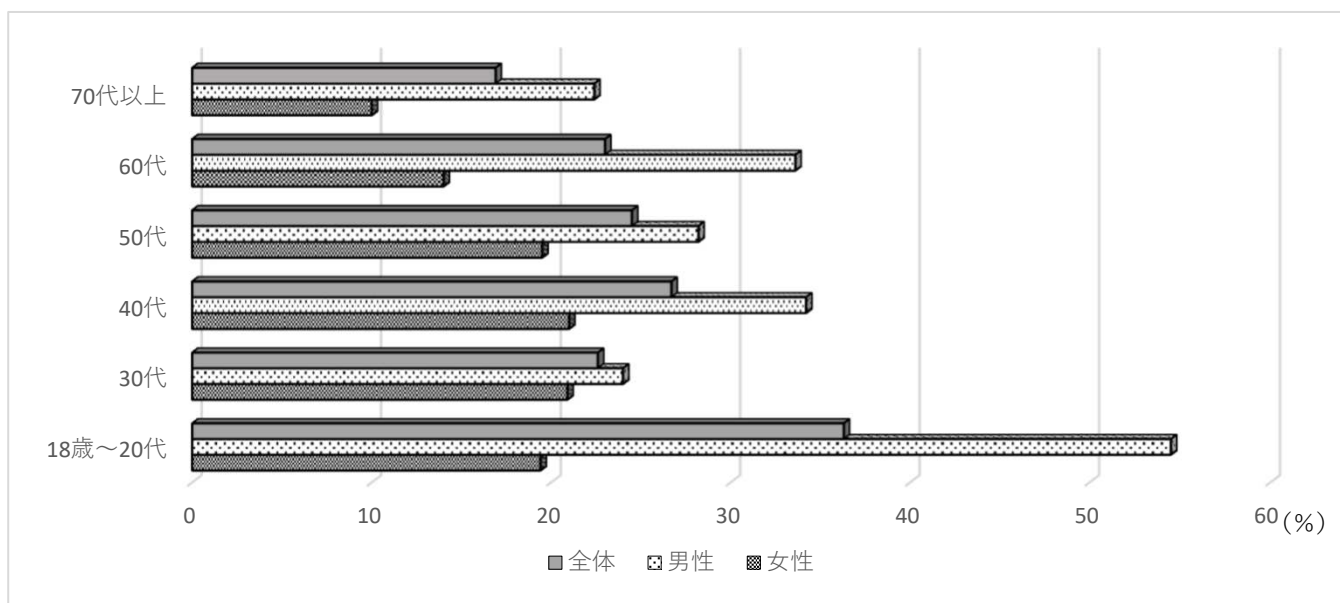
問18 自転車を利用(シェアサイクル、レンタサイクルを含みます)していますか。

	R5調査 n=1,000		(参考) R4県政モニターアンケート調査n=822	
	回答数 (人)	割合 (%)	回答数 (人)	割合 (%)
自転車を利用する	242	24.2	243	29.6
自転車を利用しない	758	75.8	567	69.0

● 「自転車を利用する」が全体で24.2%。男性の約3割、女性の約2割が自転車を利用をしている。



● 「自転車を利用する」と回答した方について、18歳～20代の男性は半数以上が自転車を利用しているのに対し、60代・70代以上の女性は1割程度の自転車利用率となっている。

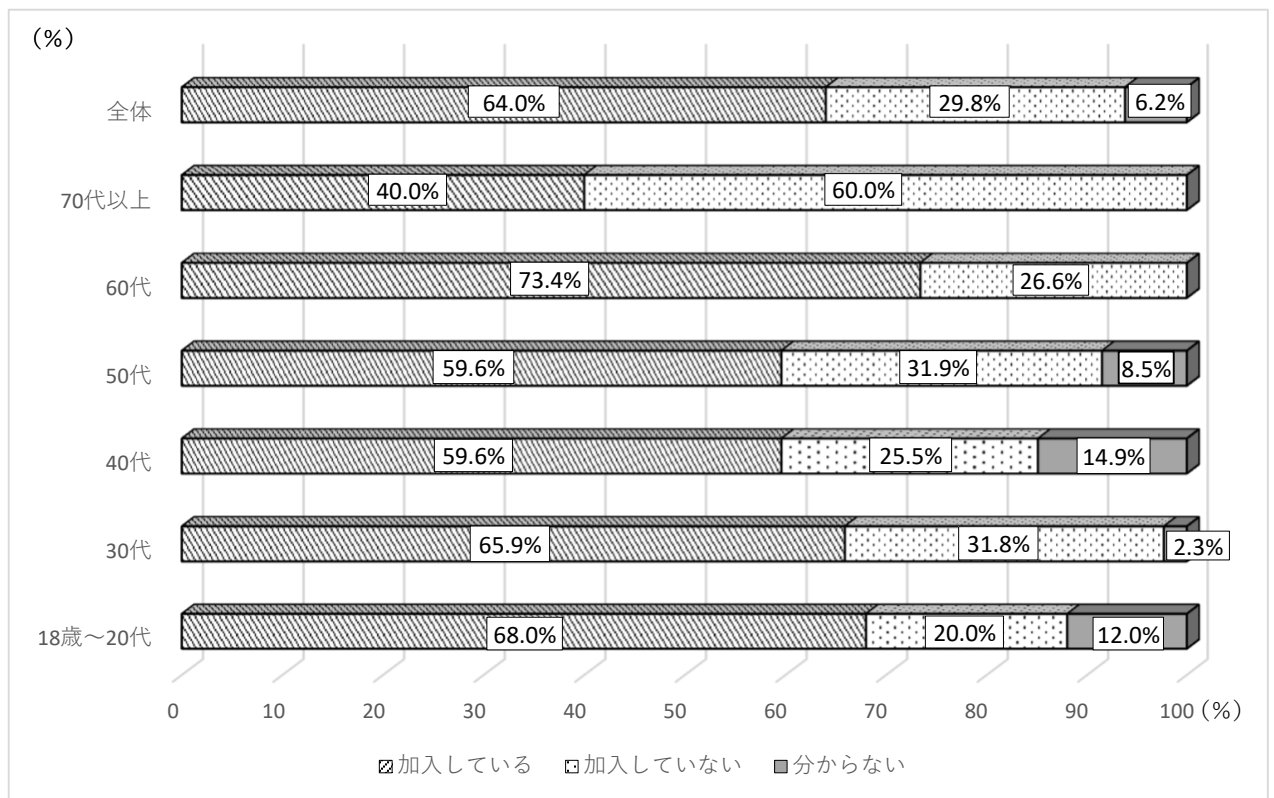


<自転車損害賠償保険等への加入状況>  
「はい(加入している)」が6割超

問18で「自転車を利用する」を選ばれた方に伺います。  
問19 自転車損害賠償保険等に加入していますか。  
(自転車本体に掛けられる保険や回答者本人が補償対象となる保険(共済)契約等を含みます)

	R5調査 n=242		(参考) R4県政モニターアンケート調査n=243	
	回答数 (人)	割合 (%)	回答数 (人)	割合 (%)
はい(加入している)	155	64.0	163	67.1
いいえ(加入していない)	72	29.8	64	26.3
分からない	15	6.2	15	6.2

●自転車の利用率が高い年代は18歳～20代から60代は自転車損害賠償保険への加入率は50%以上であるが、利用率の低い70代以上の加入率が半分を下回っている。

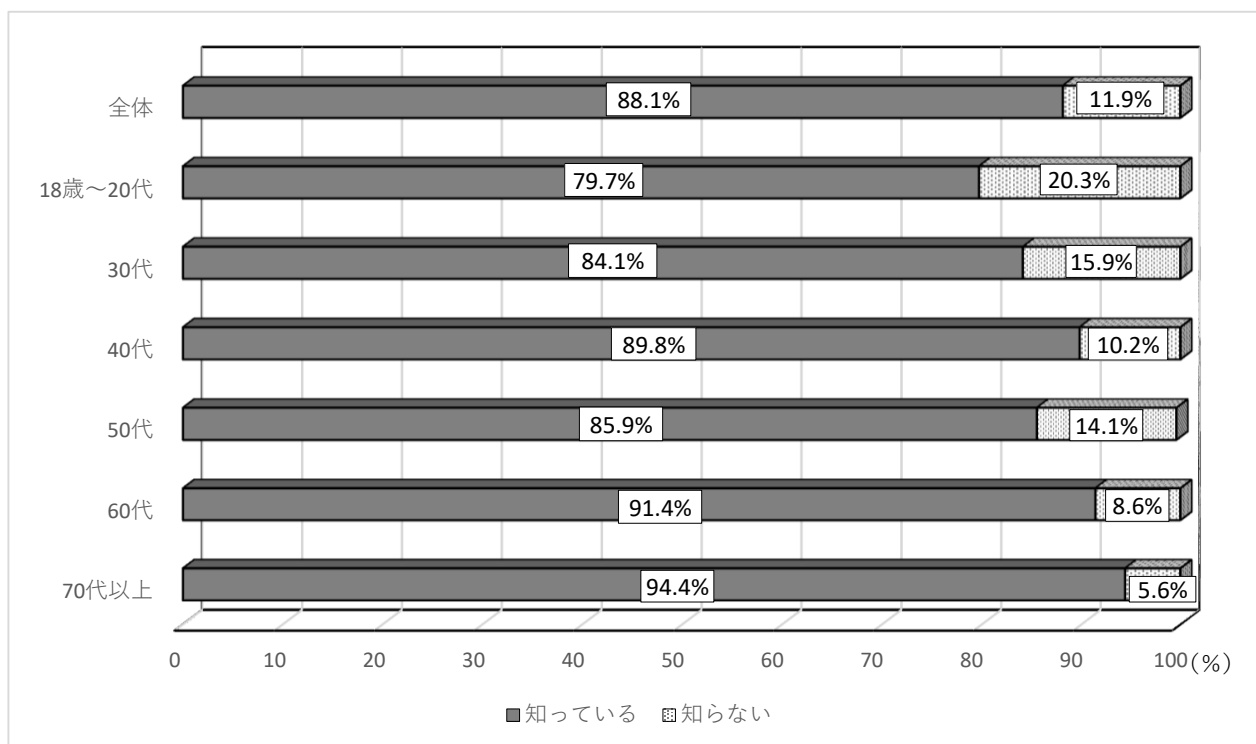
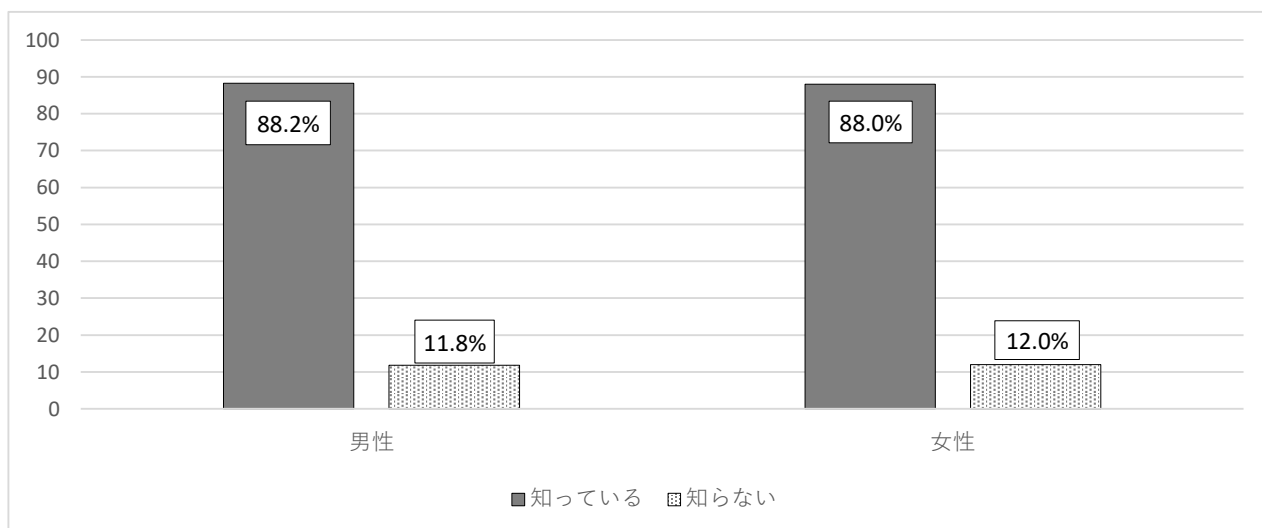


＜全年齢に対する自転車乗用時のヘルメット着用努力義務化の認知度＞  
「知っている」が約9割

問20 道路交通法の一部改正により令和5年4月1日から全年齢に対する自転車乗用時のヘルメット着用が努力義務化となっていることを知っていますか。

	R5調査 n=1,000		(参考) R4県政モニターアンケート調査n=822	
	回答数 (人)	割合 (%)	回答数 (人)	割合 (%)
知っている	881	88.1	599	72.9
知らない	119	11.9	194	23.5

●すべての年代の多くの人に「全年齢に対する自転車乗用時のヘルメット着用が努力義務化」は認知されている。

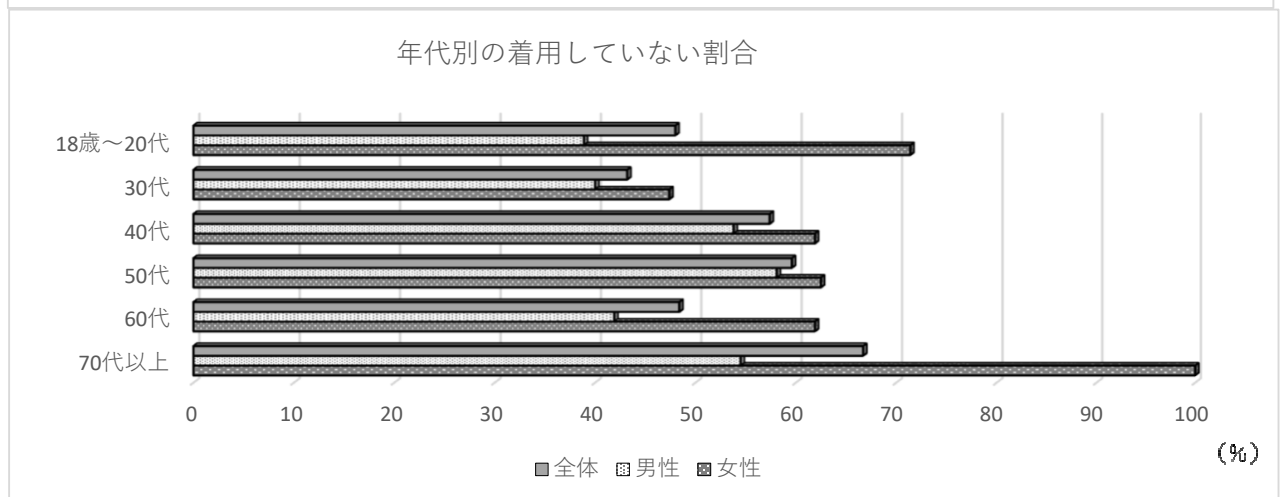
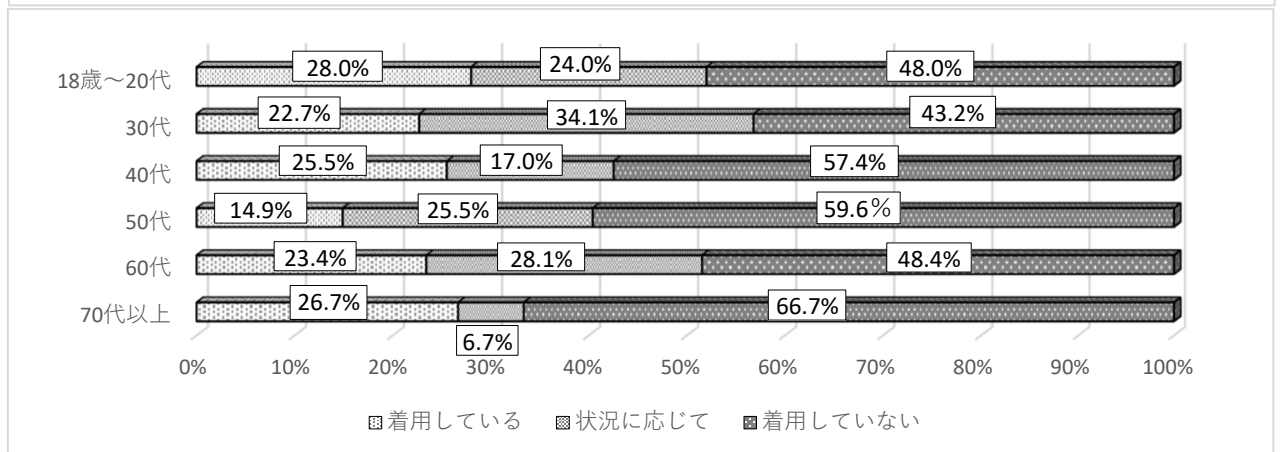
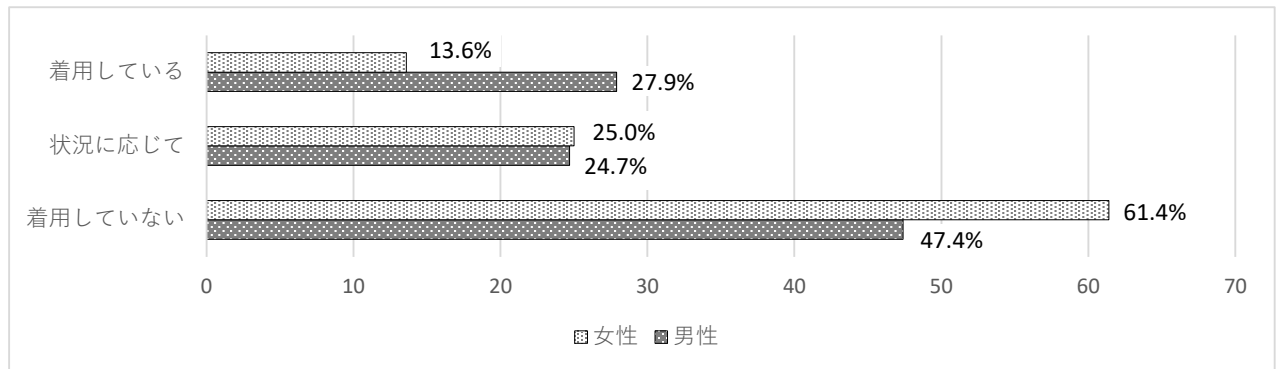


＜自転車利用時のヘルメットの着用状況＞  
「着用していない」が半数

問21 問18で「自転車を利用する」を選ばれた方に伺います。  
自転車利用時のヘルメット着用についてあなたの状況はどれですか。

	R5調査 n=242		(参考) R4県政モニターアンケート調査n=243	
	回答数 (人)	割合 (%)	回答数 (人)	割合 (%)
必ず着用している	55	22.7	20	8.2
利用状況(夜間や遠出等)に応じて着用している	60	24.8	25	10.3
着用していない	127	52.5	198	81.5

●すべての年代で自転車乗用時ヘルメットを「着用していない」が多く、自転車用ヘルメットの着用が浸透していない。

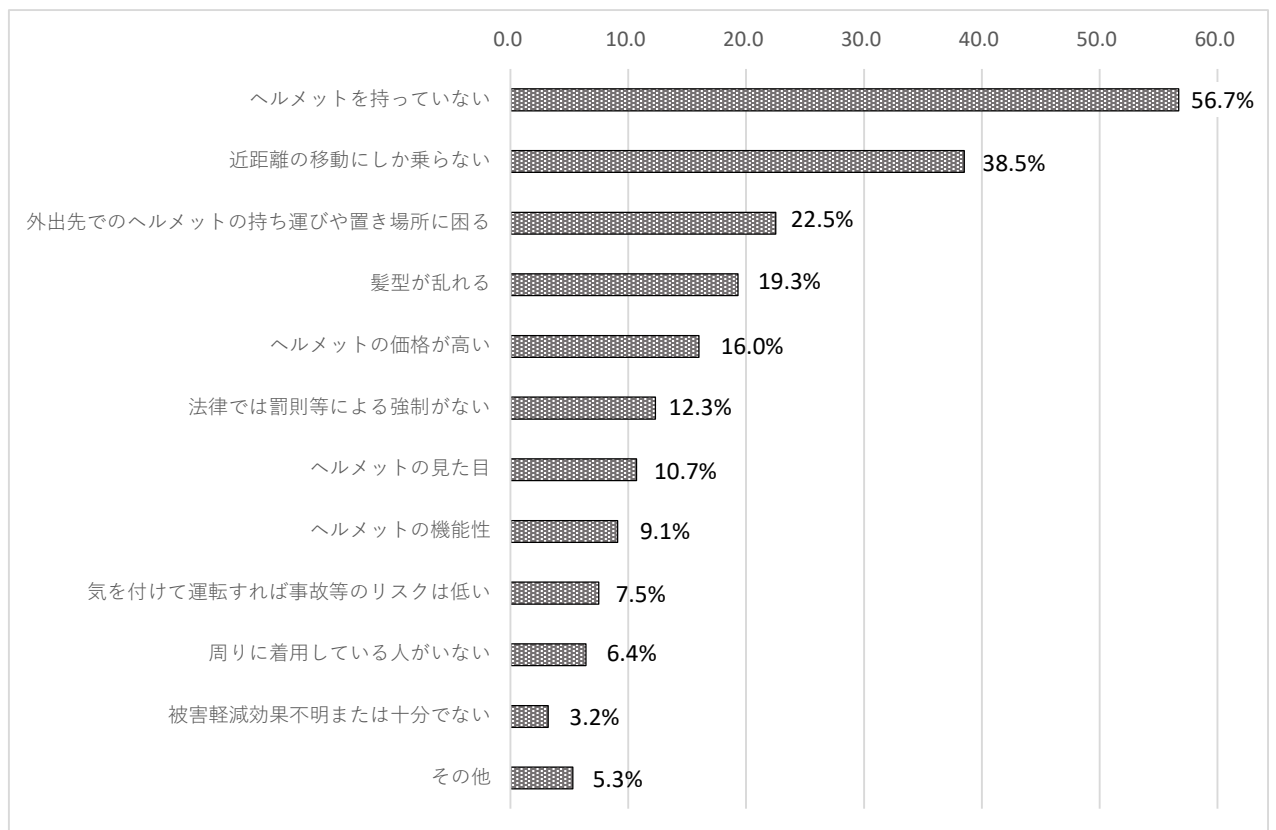


<自転車利用時にヘルメットを着用していない理由>  
 「ヘルメットを持っていないから」が6割弱

問22 問21で「利用状況に応じて着用」又は「着用していない」を選ばれた方に伺います。  
 自転車利用時にヘルメットを着用していない(ときがある)理由を選んでください。(いくつでも)

	R5調査 n=187		(参考) R4県政モニターアンケート調査n=198	
	回答数 (人)	割合 (%)	回答数 (人)	割合 (%)
ヘルメットを持っていないから	106	56.7	161	81.3
近距離の移動にしか乗らないから	72	38.5	122	61.6
外出先でのヘルメットの持ち運びや置き場所に困るから	42	22.5	56	28.3
髪型が乱れるから	36	19.3	34	17.2
ヘルメットの価格が高いから(経済的負担になる)	30	16.0	28	14.1
法律では罰則等による強制がないから	23	12.3	20	10.1
ヘルメットの見え目(デザイン)にマイナスイメージがあるから	20	10.7	21	10.6
ヘルメットの機能性(使用感・通気性)にマイナスイメージがあるから	17	9.1	20	10.1
気を付けて運転すれば事故やケガのリスクは低いと感じるから	14	7.5	31	15.7
周りに着用している人がいないから	12	6.4	53	26.8
ヘルメットの被害軽減効果不明または十分でないと感じるから	6	3.2	9	4.5
その他	10	5.3	12	6.1

● 「ヘルメットを持っていないから」(56.7%)と最も多く、次いで「近距離の移動にしか乗らないから」(38.5%)、「外出先でのヘルメットの持ち運びや置き場所に困るから」(22.5%)となった。



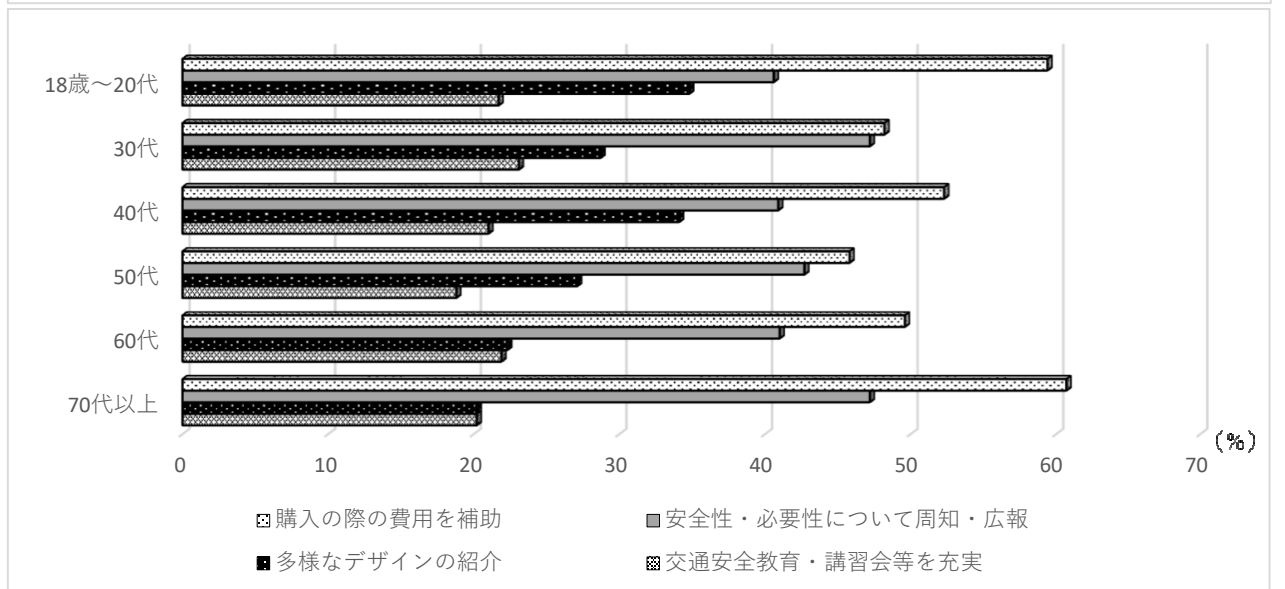
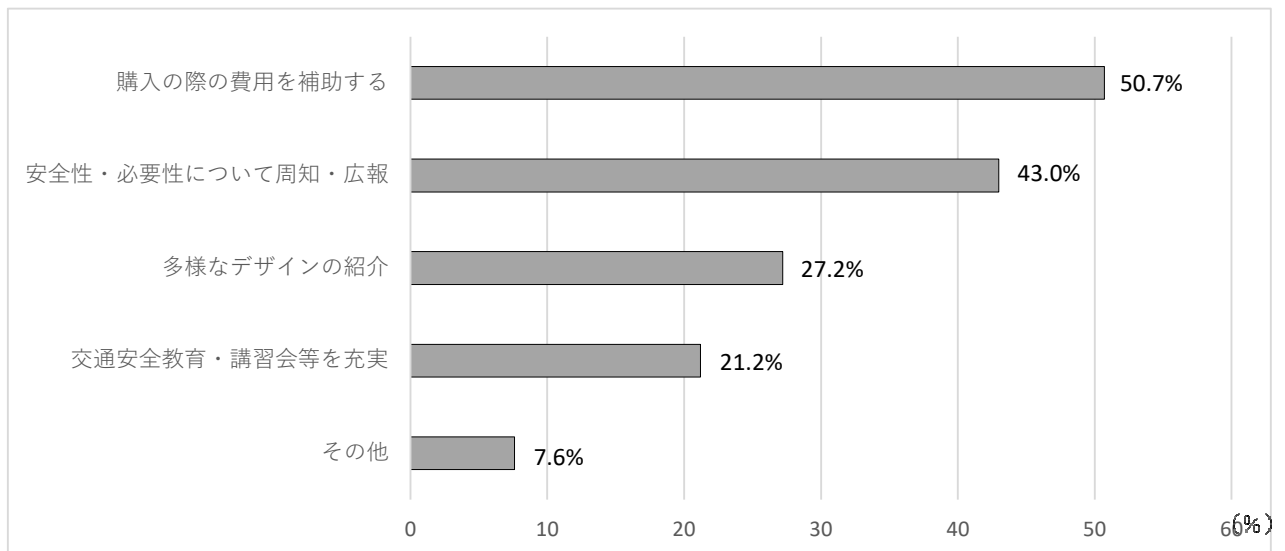
その他の理由として「近所に行くときは被らない」、「周りが誰もつけていない中、自分だけつけるのは抵抗がある」などの意見が見られた。

＜どうしたらヘルメット着用が浸透するか＞  
 「購入の際の費用を補助する」が半数

問23 どうしたらヘルメットの着用が浸透すると思いますか。(2つまで)

	n=1,000	回答数 (人)	割合 (%)
購入の際の費用を補助する		507	50.7
安全性・必要性について周知・広報		430	43.0
多様なデザインのあるヘルメットがあることを紹介する		272	27.2
交通安全教育・講習会等を充実		212	21.2
その他		76	7.6

●「購入の際の費用を補助する」(50.7%)が最も多く、次いで「安全性・必要性について周知・広報」(43.0%)、「多様なデザインのあるヘルメットがあることを紹介する」(27.2%)であった。



その他の意見として「努力義務ではなく義務とする」、「罰則を設ける」、「外出先にヘルメット置き場を作る」などがあつた。



## 《防災に関する意識について》

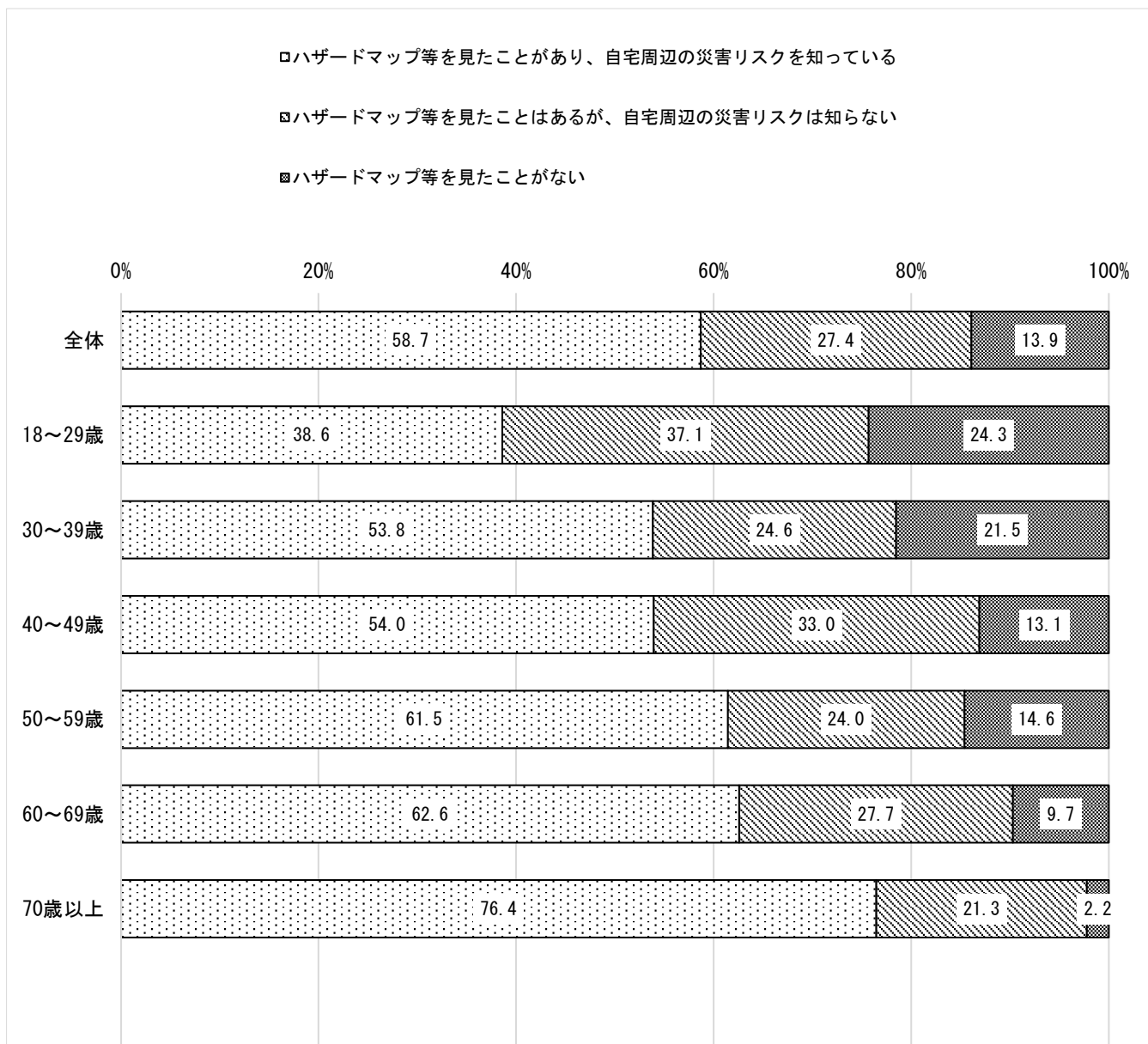
### ＜自宅周辺の災害リスク認知度＞

「ハザードマップ等を見たことがあり、自宅周辺の災害リスクを知っている」が全体の約6割

問24 ハザードマップや信州防災アプリなどにより、自宅周辺の災害リスクを認識していますか。

	n=1,000	回答数 (人)	割合 (%)
ハザードマップ等を見たことがあり、自宅周辺の災害リスクを知っている		587	58.7
ハザードマップ等を見たことはあるが、自宅周辺の災害リスクは知らない		274	27.4
ハザードマップ等を見たことがない		139	13.9

●自宅周辺の災害リスクを知っている割合は70歳以上が76.4%と最も多い。年代が上がるにつれ、災害リスク認知度が高くなっている。



**<マイ・タイムラインの作成状況>**

「知っているが、作成していない」、「知らない」の合計が全体の9割超

問25 災害に備えてマイ・タイムライン(時系列で整理した一人ひとりの防災行動計画)を作成していますか。

	n=1,000	回答数 (人)	割合 (%)
作成している		26	2.6
マイ・タイムラインは知っているが、作成していない		308	30.8
マイ・タイムラインを知らない		666	66.6

●「マイ・タイムラインは知っているが、作成していない」、「マイ・タイムラインを知らない」の合計が97.4%となっている。

